

つくし

フォト劇場 (36)

写真が生まれるものがたり

つくしんぼ ちくま 千曲川の土手につくつくん帰らざる日
のはたてに摘みき
手塚寿々枝

千曲川の辺りに通称「へちくまばた」があった。
今は宅地。両親若く子ら幼き日、畑仕事をす
る傍らの土手で私達幼子は遊んだ。いっばい
のつくしを妹弟と摘みはかまをとり、油炒め
かなにかで夕食の一品とした。

つくし生える土手に茶碗の欠片あり夕べ隣が夫婦
喧嘩して
今村日出子

どうやら夫婦喧嘩の後、奥さんが腹立ちまぎ
れに表に出て茶碗を割り、その欠片がわが家
の方にも飛んできたのだ。半世紀前はそんな
解消法もあったらしい。スカッとしたね、と
その人に話しかけてた母も思い出す。



写真・木畑紀子

土佐を発つ竜馬の足をくすぐりしつくしありけむ
嘉永六年
三浦陽子

顔を出したばかりのつくしは初々しい。洗ったような土の色をしている。土からの脱出は冬からの脱出だ。丈はちよど踝の上くらい。群れていても一本でも、早春の弾むこころをくすぐってくれる。

「誉めよ大地を、讃えよ土を」つくしらのコーラ
スのせて春の風吹く
斉藤淳子

つくしは土の中から湧き出てくる春の息吹そのものだ。大地に光と風を受けて群生するつくしは、小さな人間達が集まって楽しく歌っているようにも見え、合唱曲「土の歌」の「大地讃頌」の一節を思い浮かべた。